

平成 28 年 1 月 6 日

学位請求論文（論文博士）審査報告書

学位請求論文：

SOCIOLOGICAL MONOGRAPH ON VOLUNTARY ASSOCIATIONS IN VIETNAMESE NORTHERN RURAL AREAS

学位請求者：

ダン・ティ・ビエット・フォン（Dang Thi Viet Phuong）

所属 ベトナム社会科学院社会学研究所

（Institute of Sociology, Vietnam Academy of Social Sciences）

審査委員

主査 人間科学部教授 嶋根 克己 ㊞

副査 人間科学部教授 大矢根 淳 ㊞

副査 人間科学部教授 金井 雅之 ㊞

副査 経済学部教授 原田 博夫 ㊞

審査報告

審査委員会は、提出された本論文と参考論文をもとに、問題設定、研究の先進性、論文構成の説得性、フィールドワークの緻密さと実証性、社会学界への貢献という観点から審査した。また口述試験において、直接請求者本人に対する質疑応答を行い、上記の審査観点などについて判断材料を得た。

1. 論文審査にいたる経緯

ダン・ティ・ビエット・フォン氏（以下フォン氏）は、本学社会知性開発センター・社会関係資本研究センター（以下 CSCS）ならびにソーシャル・ウェルビーイング研究センター（以下 CSWB）と交流協定を締結しているベトナム社会科学院・社会学研究所（以下 IOS）の研究員である。同氏はベトナム国家大学・ハノイ人文社会科学大学で修士の学位を取得後、IOS で勤務し、それと平行してフランス・エクス・マルセイユ大学博士課程での研鑽を積み

重ねてきた。同氏にはこれまで数多くのベトナム語、英語による研究論文があるが、2015年6月にベトナム国家大学出版局から出版された *The Collective Life: The Sociology of Voluntary Association in North Vietnamese Rural Areas* が同氏の主著となる。同書は一般の学位申請論文と実質的に同一の内容をなしているの、審査委員一同で協議の上、審査は同書を対象として行った。

フォン氏は、CSCS がベトナム社会の意識調査を行うために IOS に調査研究の委託を行った際に、調査の実質的なとりまとめ責任者であった。また CSCS の主催するシンポジウムでベトナム調査の代表者として報告したのみならず、CSCS や CSWB の紀要にすぐれた研究論文を投稿するなど、本学と良好な関係を築いてきた。こうした経緯から、同氏は本学に学位申請論文の審査を希望し、主査ならびに副査も同氏の論文に関する審査が可能であると判断した。

2. 学位請求論文の内容

The Collective Life は、序章に続く5章と結論、さらに参考文献一覧、インタビュー記録の詳細を記した付録、索引によって成り立っており、本文270頁のボリュームがある。英語表現は洗練されており、非英語圏の人間にも理解しやすい。

序論では、問題意識、研究方法、研究対象地域について述べている。ベトナム社会は社会主義革命、ドイ・モイ政策を経て大きな社会変動にさらされている。これまでベトナム社会を支えてきた政治的(官製)社会集団に加えて、自発的な社会集団が現在多く生まれている。これらの集団の実態を解明することは、ベトナム農村の変動を理解することにもつながることになる。そこで本書では、1) 自発的な社会集団とはなにか、2) これらが人々の農村生活にどのような影響を与えているのか、3) 誰がこれに参加しているのか、4) なぜ彼らはこれに参加するのか、5) 地方政治と自発的な集団の関係はどのようなものか、などを解明することが本書の目的となる。そのために採用された研究方法は、フィールドワークを中心とする質的なアプローチである。100人を超える対象者へのインタビューを軸として、参与観察、公式文書の分析などを研究方法として併用している。ベトナムの北部農村から異なるタイプの農村を対象地としてふたつ選択している。農村における社会変動を自発的な集団の観点から明らかにしようとする問題設定は大変ユニークであり、独自性が高い。また実質的な先行研究がない領域において、緻密な質的研究によって実態を解明しようとする研究手法も正統的な方法を踏襲している。

第1章はベトナムにおける社会集団の法的な基礎について述べた部分である。われわれにとって理解しにくい共産党の統治の法的根拠から、ドイ・モイ以降にいかにして自発的な社会集団が増加してきたかについて論じている。第2章は自発的な集団の定義と分類について述べている。自発的な集団は、政府によって組織された政治的な集団とは区別され、大きく分けて友愛的集団、職業的な集団、相互扶助的な集団、同好的な集団などに下位区分できる。これらはそれぞれ目的を異にするが、農村の基礎的な人間関係を支えているという意味では、類似し

た機能を備えている。比較的首都に近く伝統的な産業のある DQ 村と、首都からはるかに遠く歴史の浅い GT 村では自発的集団の構成や成り立ちも違うが、どちらにも同じような種類の自発的集団がある。筆者は、自発的集団の性質、名称、成立時期から分類を試みている。

第 3 章は自発的集団とその活動について論じた章である。自発的集団の柔軟性は、住民間に親近感を作り出し、互惠的な相互交換は集団の一員であるという自覚もたらすことになる。また訪問したり、励ましあったり、さまざまなイベントでお祝い事をしあったりするつきあいは、制度的な集団よりもはるかに強い関係性を維持することができる。なかでも会食は相互の関係を強めるのに重要な機会である。

第 4 章は「自発的集団と社会空間の構成」と題されており、本書の白眉をなしている。上に述べたように、農村生活の基礎的な関係性を維持している自発的集団は、村落規則の維持に大きな役割を果たしている。この規則を破ることは、その住民の面子がつぶれるということであり、彼らは極力これを回避しようとする。なかでも結婚式や葬式、あるいはホームパーティなど贈り物の交換や会食をとまなう人生儀礼にはひとびとの連帯を強める作用がある。こうした行為は住民相互の責任感によって成り立っているのである。各種の村落規則や冠婚葬祭行事に関するモノグラフ的な記述が興味深い。

第 5 章は自発的集団と地方政治の関係について考察している。市場経済が浸透している DQ と純農業村落である GT では事情が多少異なるが、自発的集団は地方政府からの容認や庇護を受けたいと考えているし、他方政府は強い集団性を有している自発的集団を管理することで、住民を間接的に統治しようとしている。地方政府には自発的集団をさまざまな方法で管理する法的な根拠がある。このように自発的集団と地方政府は相互依存적であるととも、自発的集団は住民統治の媒介項ともなりうるのである。

結論では本書の内容を振り返り、その意義について述べる。ドイ・モイ以降のベトナム社会の社会経済的な変化は、人びとの社会生活に多大な影響を及ぼした。これが、現在自発的集団が活性化している背景である。自発的集団の動向を把握することは人びとの生活の変動を知ることでもある。このような問題意識によって本書は自発的集団の分析に務めてきた。特に集団がもたらす互惠性、義務的拘束性、相互扶助性などは、村の外で生きるすべのない農民に不可欠な生活の基盤を提供している。これこそが北部ベトナム農民の集団的生活 (Collective Life) なのである。

3. 口述試験

口述試験は、2015 年 11 月 15 日に専修大学生田キャンパスにおいて、嶋根、大矢根、金井、原田の 4 委員によって行われ、オブザーバーとして廣田康生人間科学部教授が参加した。

まず論文の概略についてフォン氏からのプレゼンテーションののち、各委員からの質問がなされた。問題意識、方法論、全体の構成、調査地域の選定方法とその意図、モノグラフ

的データの収集と記述の方法、分析から得られた社会学的含意などについての質問が各審査委員から寄せられたが、フォン氏は適切かつ明快に応答した。これらの内容から本論文が間違いなく申請者自身によって執筆されたものであると判断された。またその場で提示されたフランス語テキストを流暢に読みこなしかつ適切な英語に翻訳したことから、英語のみならずフランス語においても、フォン氏は大変高い能力があることを確認した。

4. 審査員の評価と指摘

論文の内容に加え、口述試験でのプレゼンテーションおよび質疑応答の結果、審査員一同は博士の学位を授与するに相応しい大変優れた論文であると判定した。

具体的には、ベトナム社会の変動をその基盤である農村社会における自発的集団の族生による構造的な変化に見ようとした点、先行研究のまったくないベトナム農村の自発的集団をモノグラフ的な方法で解明しようとした点、などに独特の視点が見られる。また本論文は、自発的集団をマクロな国民社会に位置づけ、そこから市民生活の内容に下降し、さらにマクロな政治体制との相互依存関係へと上昇するという、中間集団を媒介としてマクロレベルとミクロレベルを往復しようとする巧みな構成となっている点などは、高く評価されるべきである。また社会学的な知見の空白地帯となっているベトナム社会について実証的な調査研究を行い、かつその研究内容を英語で出版したことは、国際的な水準での社会学研究に多大な貢献をもたらすに違いない。

一方で、モノグラフとしての記述の厚みが足りない、国際的な研究動向への目配りが少ない、社会現象の詳細な記述を抽象化して社会学の理論へと連結する道筋を示して欲しかった、などという審査委員からのコメントが寄せられたが、いずれも今後フォン氏が業績を重ねるにつれて発展的に解消されるであろう課題であると判断される。

以上、審査の結果、ダン・ティ・ビエット・フォン氏が学位申請論文として提出した“SOCIOLOGICAL MONOGRAPH ON VOLUNTARY ASSOCIATIONS IN VIETNAMESE NORTHERN RURAL AREAS”は博士の学位を授与するに相応しい優れた論文であると審査員の判定は一致した。